

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 26

## 地域・家庭との連携による落ち着いた 学校づくりと学力向上の取組

倉敷市立粒江小学校

### 1 はじめに

本校は、児童数約500名の  
中規模校です。近年、児童数が  
増加し、学習態度や学力状況に  
課題がありました。そこで、地  
域・家庭と連携して、落ち着い  
て学習できる環境づくりに取り  
組み、学力向上を目指しました。

### 2 取組の概要

#### (1) 生活力の向上

家庭の協力を得て、生活習慣  
を振り返る「モーニングチェック」  
「健康貯金」を実施してい  
ます。また、高学年は年に数回  
「自力弁当の日」を設けて、家  
庭科の学習を生かし、自作の弁  
当を持参しています。

#### (2) 心を育てる活動の充実

地域の方々による「読み語り  
ボランティア活動」や「自主子



栗山での栗拾い

ども見守り会議」、PTAによ  
る登校班編成などで、子どもた  
ちに地域への愛着と感謝の心が  
育ちました。また、地域の学校  
園、高齢者福祉施設との交流学  
習や学校所有の栗山でユネスコ  
スクールとしての活動を行うこ  
とは学校教育の大きな柱となっ  
ています。

### (3) 授業改善

学習規律検討委員会を  
設置し、学習規律の徹底  
を図るとともに学力や児  
童の意識の実態を調査し  
ました。その結果をもと  
に改善の方向性を全職員  
で検討しました。県総合  
教育センターの指導主事  
による授業参観と教員一  
人一人との面談による指  
導力を高める取組は、教  
師自身のスキルアップと  
モチベーションの向上に  
つながりました。

### (4) 基礎学力の向上

調査結果から、前学年の学習  
内容が定着していない傾向が分  
かり、前学年の内容の反復練習  
を中心とした「スキルアップタ  
イム」を導入しました。また、  
特別支援教育の視点を生かした  
授業づくりにも取り組みました。

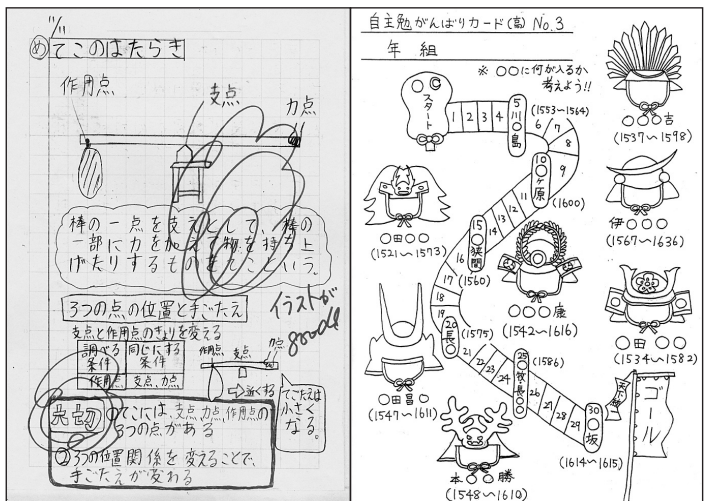
### (5) 家庭学習の充実

家庭学習の手引きの作成・活  
用とともに児童の運営委員会が  
「自主勉強パワーアップ週間」の  
取組を立ち上げました。上級生

### 3 おわりに

「授業がよく分かる」という  
児童が増え、不登校ゼロも達成  
しました。今後も地域・家庭と  
連携して児童の実態に即した授  
業改善を続けていきたいと考え  
ています。

(前年度校長 鷺見 京子)



自主勉強ノート

自主勉強張りカード

児童一人一人の知的好奇心を高め  
学力向上を目指す取組

高梁市立有漢西小学校

1 はじめに

本校では、基礎学力の定着が十分でない児童が多く、自信のなさから積極的に学習に取り組む姿勢に課題がありました。そこで、陰山メソッドを取り入れた徹底反復学習、知的好奇心を揺さぶる学習活動を中心に、学力向上を目指す取組を行いました。

2 取組の概要  
(1) 陰山メソッドによる徹底反復学習

① 朝学習  
毎週火曜日から金曜日の朝の15分間を朝学習の時間にあてています。この時間に、音読・百ます計算・漢字テストを行い、家庭学習でも反復練習をします。朝学習では、テンポとス

ピードのある学習を心がけ、児童の集中力を高めています。



フラッシュ型教材を使った授業

② モジュール授業

月曜日1時間目にモジュール授業を設定し、45分間の間に短時間学習を組み合わせて、反復練習を図っています。この時間では、朝学習の内容に加えて、

フラッシュ型教材の活用や、聞き取り問題なども取り入れ、学力の向上をめざしています。高学年では、外国語の授業も行っています。

これらの取組により、読み書き計算等の基礎学力は確実に身につけてきています。

(2) 知的好奇心を揺さぶる学習活動

① 地域に学ぶ学習

総合的な学習・社会科・生活科等で地域に積極的に出向いて学習をしています。この学習を通して、地域のことを進んで知りたいという気持ちが芽生え、地域を愛する気持ちが育つてきています。

② 外部人材の登用

児童がより学習に興味をもって取り組むことができるように外部人材を登用し、魅力的な授業を展開していただきました。それぞれの専門性を生かした授業は、児童の知的好奇心を揺さぶることができたと実感しています。

3 おわりに

児童の積極的な学習参加は、徹底反復学習で基礎学力が安定したことにより、さらに充実したものになりました。また、様々な授業で知的好奇心を揺さぶることにより、学習への意欲が高まりました。

今後も取組を継続し、さらなる工夫を加えながら、地域とつながり、学力が伸びる学校づくりに努めていきたいと思えます。

(校長 本倉 弘美)



外部人材による理科の学習





児童の頑張りが伝わる玄関掲示

管理職の強いリーダーシップで、教職員が  
一体となって粘り強く進めた学力向上の取組

和気町立佐伯小学校

## 1 はじめに

本校は、基礎学力の定着や学校全体としての統一的な授業改善に課題がありました。そこで、「学校経営ブランドデザイン」や「学校経営方針十か条」を示し、全教職員が方針からぶれない教育活動に取り組みました。

## 2 取組の概要

### (1) 目標の共通理解

4月当初、新体制である職員会議で「学校経営ブランドデザイン」「経営方針十か条」について共通理解を図りました。その上で、児童には、始業式、保護者にはPTA総会、地域には学校便りで共有を図り、教職員のみならず児童・保護者・地域が一体となって学校経営に参加し、それぞれの果たす役割を明確にして、ぶれない教育活動の具現化を図りました。

(2) 目標の具現化

学習環境や授業について、「当たり前前」を当たり前前意識の継続を図りました。例え



児童の主体的なあいさつ運動

ば、岡山型学習スタンダード・姿勢・靴そろえ・教室の整理整頓等、誰もが意識して統一した指導で、落ち着いた学習環境づくりをしました。また、様々な教育活動では、一工夫を取り入れ児童の意欲や学力の向上につなげました。そして、「現状維持は後退」という意識を常にもち、惹きつけられる教育活動に取り組みました。

### (3) 目標の評価

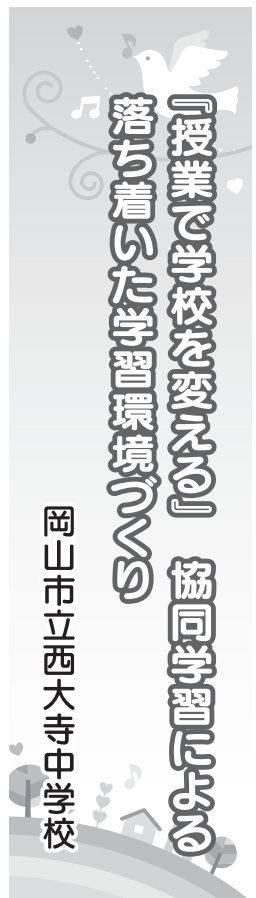
教育活動すべてにおいて、目標を明確にした提案をすること

で、手立てや評価、達成感を大きくしてきました。また、学級経営案を学校経営案とリンクさせることにより、日常的に誰もが教育目標からぶれない指導や教育活動ができるようになりました。そして、学期末ごとに評価をして、改善点を示し、PDC Aサイクルの確立を図りました。結果として、今年度の学校経営の評価につながり、一人一人が組織の一員として貢献し、学力をあげてきたことが実感できることが多くありました。

## 3 おわりに

平成29年度は、「学校経営ブランドデザイン」に沿って、一人職も含めた全教職員が「学校経営参画案」を作成し、自分の立場からどのように学校経営に貢献していくかを明確にして、更に「チーム佐伯」を高めています。

(校長 道廣 美恵子)



### 1 はじめに

本校では、以前から、授業放棄、器物破壊、対教師暴力、喫煙、無気力、孤立、不登校等、生徒指導上の課題が多く、平成22年度より、「授業放棄ゼロ」「不登校ゼロ」「学力向上」を目指して、『学びの共同体の協同学習』に着手し、8年目を迎えています。

### 2 本校の基本理念

『どんな生徒も丸ごと受け止め、絶対に見捨てない』『すべての生徒の学びと育ちを保証する』という基本理念を学校経営の柱とし、その理念を、日々の授業、人権教育、生徒指導、学級経営等、全ての教育活動に根付かせています（学力向上のみならず）に目を向けた「授業改革」ではありません。



協同学習公開授業（体育館）

### 3 取組の概要

- 教科・学年の壁を取り払い、全ての教科、全ての教室、全ての教員で「協同学習」を推進しています。
- 全ての教員が、年に最低1回以上の授業公開を行い、教室を開き、共に学び合っています。
- 毎週水曜日の放課後を研修日とし、公開された授業について、各教科や各学年で協議会



保護者&地域の協同学習体験授業

をもち、意見交換を行っています。（生徒理解&授業技法等の共有）

- 授業に、共有課題とジャンプ課題を設定し、「生徒の困り感」に寄り添った授業を心がけています。
- 授業者は、班活動にせざるを得ない仕掛け（課題）を考えられています。
- 「分からん、教えて」と言い合える関係性を大切にし、班活動を通して、「個の考え」を広げたり深めたりしています。

- 年3回（学期に1回）、全国に発信（案内）し、代表クラスが体育館で提案授業を行い、

- 「生徒の見取り」等を基に全教員で意見交換をした後、スパーバイザー（佐藤雅彰先生&佐藤暁先生）から生徒へのかかわり方や技法等について、助言をいただいています。
- 地域協働学校（H26設立）の地域部と連携し、地域参加型協同学習を実施しています（協同の啓発）。

### 4 おわりに

本校に赴任して5年目になりますが、教職員のゆるぎなく粘り強い生徒との「かかわり」や、どの子も見捨てない「授業創り」等のお陰で、完全な授業放棄生徒がいなくなり、生徒同士がつながり、温かい空気感の漂う、居場所のある落ち着いた校内環境になっています。支援を必要とする生徒が増えている中、今後とも、常に危機感をもちながら、全教職員がベクトルを合わせ、謙虚に学び続ける「チーム西大寺」でありたいと思います。また、『学び続ける生徒は崩れない』を合い言葉に、これからも『授業創り』を大切にしていきたいです。（校長 梶原 敏）

※文中の「困り感」は学研の登録商標です。





### 1 はじめに

加茂小学校・加茂中学校は豊かな自然に囲まれた県北の学校です。中学校区に一小学校しかありません。この度ブロックの継続的な取組が優良実践に認められて光栄に思います。加茂中学校に教頭として3年、そして加茂小学校に校長として赴任した私にとって『小中連携』はスムーズな接続はまさに命題でもありました。

### 2 取組の概要

連携には三つの柱があります。  
**(1) 教職員の交流と接続**

参観日には相互の「授業参観」を自由に行い、夏季休業中にはブロック小中連携研修会をもちます。主題は「学力向上、学習習慣づくり、授業規律」です。生活の基盤である「あいさ



ブロック小中連携研修会

つ・そうじ・はきものそろえ」

や基礎学習徹底の接続として「九九」や「百マス計算」の重

要性が共通認識され、朝学習の取組である小学校「漢字・算数

ぐんぐん」は中学校の「チャレンジテスト」に繋がりました。

(中学校では生徒会も自主制作で学力対策問題を作成)

中学校から「音楽」「外国語

活動」に出前授業をいただき、卒業間近になると、「中学校とはこんなところ」というガイダンスになる出前授業をいただきました。

### (2) 子どもたちの交流と接続

数々の合同行事で交流します。

・学区合同クリーン活動

・「合同コンサート」や「合同教育講演会」への参加

・「吹奏楽コンサート」

・児童会、生徒会の交流

いろいろな場面で目にする中

学生・先輩の肅然とした姿は中

学校生活へのあこがれを醸成し、

中1ギャップの解消に繋がりました。

した。

(3) 地域とともにある学校

「読み聞かせ」「書道や家庭

科の授業支援」などのボランティア支援を受け、また、逆に地

域に Outreach、地域の皆さんと接

して、子どもたちは成長してい

ます。小学校では「アユの放

流」「ミニトマトの植え付け」

「加茂まち探検」「森林学習」

「記念植樹」「作業所訪問」な

どを体験し、中学校の「職場体

験」(地元企業代表者の講話)

く



5年生「森林学習」外部講師授業

成果発表会)へと続きます。9年間を通して地元の皆さんに支えられているという体験や思いは「かもっ子」としての自己肯定感や自尊心にも繋がっています。

### 3 おわりに

小中の児童会・生徒会はとも

に自治活動ができ、本部・各専

門部とも工夫された活動ができ

ています。「寸劇」を取り入れ

たアピール活動は小中とも得意

分野となりました。今や、上級

生の姿が下級生のあこがれとな

り、伝統が引き継がれているよ

い状態です。

(加茂小学校長 久永 浩輝)